

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組	
安心で豊かに暮らせる福祉のまち富合	生きがいを感じ安心して暮らせるまち富合	高齢者	・孤立防止と社会参加	・施設によっては、施設内でコロナ感染者が出た場合など、入所者の外出制限等がある場合もあり、状況に応じて活動の内容の変更等も必要である。 ・外部との接触が少ないと会話や情報も一定の人とのやりとりになりがちである。	・高齢者サロンにて、健康講話を計画する ・日頃からの声かけや見守り 日頃からの近所付き合いを大切にする ・各機関の特性を生かし、講演会や体験会など開き、楽しく充実した生活をおくれるヒントを知る機会を作る	・日頃からの声かけ、見守りの啓発 ・認知症声かけ訓練 ・生活支援（1人高齢者への菓子配付事業・買い物支援） ・認知症サポート講座の地域普及 ・金婚表彰式開催	
			・体力維持と健康	・サロン再開も徐々に始まり、出かける機会も増えているが、出かけることがおっくうになっている高齢者も見受けられる	・地域行事への参加呼びかけ、健康に関する情報の提供をする ・校区内に通いの場を細かく立ち上げ、通いやすい環境を作る	・各地区サロンの推進、助成 ・ラジオ体操（健康まちづくりとの連携） ・ウォークラリー等イベント（スポーツ協会・総合型クラブとの連携） ・総合型クラブとの協力によるスポーツ体験など ・校区自治協議会との連携	
		障がい児・者	・障がいのある方との関わりが少なく、障がいについて理解する機会も少ない	・地域の方達は、障がいのある方や関係する機関と直接関わる事が少なく、具体的にイメージができていない	・障がいのある方への関わり方や対応についての研修会等を行う ・障がいがある方が地域の会議や活動に参加することで、障がいに関する現状を地域の方々に伝えていただく	・地域と一緒にラジオ体操 ・障がい者就労施設、授産施設との協力体制づくり ・子どもたちへの学習支援（障害者についてなど）	
			・障がいのある方に関する情報の共有ができていない	・障がいのある方の実態(人数、生活)が分からない ・個人情報等の問題もあり情報収集できていない	・個人情報の取扱いに留意し、本人の了解を得て情報を把握する ・地域の障がい者施設等の協力の中で、会議や活動を通じ、障がいのある方の実情を把握する		
	地域で育てよう富合の宝	子ども・子育て	・人口増加による地域とのつながりの希薄	・相談者、協力者がいない人がおり孤立化した現状もある ・生活上の問題を抱えた母子ケースもみられる ・コロナ禍で赤ちゃん訪問、育児サークル等が中止になっていたこともあり再開後のスムーズな運営と協力者の確保 ・住宅の増加により、地区でも把握が遅くなっている	・日頃からの近所付き合いや交流を大切にする ・地域の取り組みや各種団体との情報交換を継続する ・子育て支援ネットワーク、子育てサロン、あいさつ運動等の助成、協力など	・小学校、中学校新入生への黄色の帽子、図書券配付事業 ・赤ちゃん訪問（家庭状況に合わせて行う必要性もある） ・子育て支援ネットワークへの各機関の協力 ・地域総合型クラブとの連携と協力 ・地域コミュニティセンター等での行事のお知らせ ・子育てサロンへの協力 ・あいさつ運動推進 ・検討会議への参加 ・関係機関との連携 ・放課後の遊び場	
			人のつながりで助け合う富合	災害・防災	・災害に備えた平時の見守りと避難支援体制の構築	・対象者及び個別計画等の各機関周知不足	・災害時要援護者避難支援制度における個別支援プランを作成する ・避難行動要支援者名簿対象者の個別避難計画を作成する
	・防災に対する地域住民の意識づけ	・避難に関する行政情報の伝達と理解不足 ・地域の危険箇所情報の周知不足	・個人の避難行動計画作成する ・地域版ハザードマップの作成及び周知する ・防災に関する社会資源情報をまとめる				
			その他	・地域役員の担い手不足 ・校区社協としての役割とは	・校区住民が社協に求める活動とは何かの認識不足 ・活動資金の減少 ・役員、ボランティアの高齢化、次の担い手が見つからない ・民生 児童委員の不足 ・民生 児童委員の役割等住民理解の不足	・地域事業のPR、リーフレット等の制作（回覧板、学校、校区内各施設等に配布） ・若い世代との、交流を活発化する	・校区の関係機関との連携 ・子どもだけでなく保護者等との懇談のなかで、地域役員、社協などの役割を周知する機会をつくる